



令和7年度 家久保育園取り組みと評価

令和8年3月18日

この度、令和7年度の保育園評価として、職員が自己評価を実施しました。また、それぞれの評価を踏まえて話し合い、成果や課題、改善の方向性などを明らかにしました。この結果を受け止め、さらなる保育活動の充実や職員の資質向上に努めてまいります。

【成 果】

- 子ども達が何に興味や関心を持ち、どんなことに意欲的に取り組んでいるのかを捉え、発達を見通し、子ども達の思いを大事に受け止めてきました。その子ども達の姿から保育者の関わり方や援助、環境構成についてクラスの職員間で十分に話し合うことで、同じ願いをもって保育することができ、自分の保育の振り返りにつながりました。また、他のクラス職員とも共有することで、園全体の保育の質の向上につなげていくことができました。
- 教育・保育の活動や行事の取り組みでは、子ども主体となるよう、日々の保育からのつながりを意識し、職員間で検討しながら工夫してきました。また、保護者の方には親子遠足や運動会、発表会等の行事に取り組む過程を伝えていき、当日の子どもの様子を見てもらうことで、子どもの成長や年齢の発達を実感してもらうことができました。
- 園だよりやクラスだより、保育参加、懇談等を通して、園での子ども様子や成長の過程などを保護者の方に伝えてきました。また、コドモンを利用して、日々の保育の様子を写真と共にタイムリーに発信することで、保護者の方の安心感にもつながり、家庭内（両親、祖父母）においても共有され、子どもの興味を広げたり深めたりするにつながりました。
- いきいきサロンや地域デイサービスの方との交流、地区ふるさとつどいの参加等をおして、地域の方と交流をもつことができました。また、5歳児においては、吉野地区の幼稚園やこども園の5歳児との交流をもち、就学への期待や安心感へとつなげることができました。



【課題】

- 子ども一人一人が伸びやかに生き生きと活動することができるよう、職員同士で話し合う場をもち、子ども一人一人の発達に合わせて育みたい力や願いについて意識しながら関わったり、環境を整えたりしていくことが必要だと考えます。
- 各クラスの日々の様子についてはそれぞれのクラスの保護者の方に配信して伝えてきましたが、子どもの育ちのつながりにおいて、他の年齢の保護者にもそれぞれの年齢の子どもの経験や学び、育ちを発信していくことが必要だと考え、わかりやすく伝える方法を検討していきたいと思います。
- 地域子育て相談機関として、園開放を行ってきましたが、利用する未就園児の親子が少なかったため、情報発信の仕方や園開放の取り組みについて見直し、利用しやすい園づくりを考えていきたいと思います。



【来年度の園経営、教育・保育活動における改善方策】

- クラス職員間で子どもの育ちや学び、保育者の援助、環境構成について対話を十分に行い、職員全体で話し合ったことをクラス保育に還元し、実践していくというサイクルを継続して行っています。そして、子ども一人一人を尊重する保育や発達に即した願いをもって、関わったり環境づくりをしたりしていきます。
- 各年齢の子どもの経験や学び、育ちが次の年齢の育ちや学びにつながっているということをドキュメンテーション等で発信し、保護者の方と一緒に子どもの成長を喜び合ったり、「子育て」の楽しさを感じ合ったりできるように努めていきます。
- 地域子育て相談機関としての役割を意識し、子育て支援の充実を図っていきます。また、保護者の方や地域の方々、小学校、幼稚園、こども園、専門機関との連携を活かしながら、様々な人達との豊かな人間関係を築き、自己肯定感を育むことができるように計画的に交流を行っていきます。

